

中部人懇通信 No.4

学級担任
対象

平成30年10月22日(月)に、はばたき人権文化センターにおいて学級担任及び希望者を対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

現地研修・講話 講師 はばたき人権文化センター 所長 山下 千之 さん
はばたき人権文化センター 指導員 上田 敏博 さん

上田指導員より、地区の歴史や同和対策事業について、また、地区の現状について、お話をいただきました。

堤防の高さが現在の1/3もなく、いつも洪水の脅威にさらされていたこと、小集落地区改良事業へ着手するが、いろいろな困難な問題と直面したこと、何度も話し合いを重ね事業が進められてきたことなどのお話から同和対策事業の取組や成果について実感することができました。



山下所長からは、部落差別との出会いや、はばたき人権文化センターに勤務し地域の方や保護者と共に取り組んだことについて、お話しいただきました。

「差別の現実深く学ぶとは」「人権を学ぶことがすべての人に必要な理由」等、実体験を基に語っていただきました。

差別解消に向けて講師の方の熱い思いを感じることができる貴重な機会となりました。



グループ協議 「現地研修で学んだことをどのように生かすのか」

小・中・高の先生方、市町の人権教育推進委員の方等の混合グループで、現地研修の感想を交流し、研修の学びを今後の取組に生かすための協議を行いました。それぞれの立場から現在の取組や課題を話され、児童生徒の学習の様子なども共有することができました。今後の取組についても小中高連携の必要性等、熱心に協議が行われていました。



【参加者の感想より】

- 現地の様子話を話してもらった中で「正しいことを知る」ことの大切さを改めて感じた。所長さんのお話から、自分の弱さについて振り返ることができた。
- 学校現場で子どもたちを学ばせていくために、自らが学ぶことの必要性和責任の大きさを改めて感じた。立場の自覚、どの立場にも自分たちがなり得ることを自分自身が自覚していきたい。
- 実際にあっても見えにくく気づきにくい、未だになくならない差別ですが、正しい知識を持って、差別をなくするために自分にできることを常に考えながら取り組んでいきたい。
- 現地に赴き、その現地で生活された方々からのお話は、まさに「生」の声であり、その思いを子どもたちに伝え、さらに育む責任を感じた。「自分たちにできることは」と自ら問いかけるような子どもを育てたい。
- 熱意を持って授業に取り組みたい。小さなことでも自分のこととして考えられる仲間づくりをしていきたい。



現地研修は、「部落差別の現実から深く学ぶ」を中心に据え、自分の「生き方」を振り返り、これからどういう「生き方」をしていくかを見つめ直す機会です。2人の講師の方の話により、地域の人たちの思いや努力に触れることができました。

参加者の中には、差別が現存することに驚きをもっている方もおられました。現地で話を聞き、教師自身が正しく学ぶことや自分のこととして学び続けることを大切に、本研修の学びを今後の実践に生かしていただきたいと思います。